

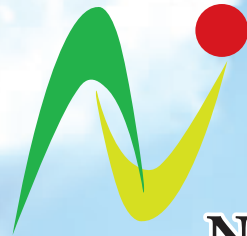
# なかがわ

広報

2017. 8



町のイメージキャラクター  
「なかがちゃん」



No.143

- 災害に備える 2
- 町長選挙のお知らせ 4
- ホースヘッズ村から親善訪問団来町 6
- 食中毒に注意しましょう! 11

プールだいすき!!



わかあゆ認定こども園



## 第143回

広報展示室にて「川村清雄展」をご紹介しますのは今回で3回目。今回は、いつもと趣向を変えて、川村清雄がどのような方法で絵を描いたのかを科学的に調査した結果を踏まえて、ご紹介したいと思います。

なぜ絵画の技法を調査することが美術館で必要とされるのか、なぜ科学的に作品を調査するのか、疑問に思った方は多いのではないのでしょうか。一見、科学と美術作品は無縁に感じるかもしれませんが、しかし、作品はそれぞれ素材から出来上がったものであり、いつかは素材特有の劣化(変色や腐敗など)が生じてしまいます。劣化は素材が化学反応を起こした現象であり、作品がどんな素材なのか分かった上で展示や保存をしなければ、劣化を予防する事は難しいでしょう。また見た目で見える素材もありますが、絵具など化学的に合成されたものは分析しなければ分からない場合も多いです。

今回は作品を傷つけず、簡易的に絵具を推定できる蛍光エックス線元素分析で、清雄がどんな絵具を使っていたのか東北芸術工科大学と共同で調査をしました。図の「楊柳」では、柳の葉や水面の緑色部分ではヒ素と銅が検出され、エメラルドグリーンという絵具が使われている事が推測されました。図右の青色部分ではコバルトの検出からコバルトブルーが使われている事が推測できます。また、分析箇所全部分から鉛が検出され、恐らく鉛白が多くの箇所に使われた可能性が挙げられます。白色絵具は様々な種類があり、鉛白の他にカキなど貝殻を砕いて作る胡粉などがあります。中でも鉛白は温かみのある白色であり、油絵で使うポピーオイルと一緒に使うと変色しにくく、劣化しにくい特徴があります。清雄の息子・清衛氏の証言では、鉛白とポピーオイルは多く使っていた画材であり、「楊柳」など清雄の作品は変色や絵具剥がれる事は少なく、良好な状態で現存しています。パリやヴェネチアで本格的に油絵を学んだ清雄は、学んだ絵画技術を活かし、出来る限り良好な状態で作品が残るように画材を選んで作品を作っていたかもしれません。

## 企画展

### 「川村清雄展」



かわやなぎ  
「楊柳」川村清雄

清雄の作品は現存する作品が少ないためか、どのように作品を作りあげてきたのか、まだ調査事例が少ないです。絵画の素材を解明することによって劣化を防ぐこともできますが、清雄の制作技術の高さを証明することも可能かもしれません。展覧会では今回の調査結果の一部をご紹介します。作品の魅力だけでなく、清雄の技術も感じて頂ければ幸いです。

馬頭広重美術館 学芸員 山内れい

【会期】 後期 8月10日(木)～9月10日(日)

【開館時間】 午前9時30分～午後5時  
(ただし入館は午後4時30分まで)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

8月12日(土)午後1時30分～ 当館学芸員

【休館日】 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日

【入館料】 大人 500円(450円)  
高・大学生 300円(270円)

※( )は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方とその付き添い1名は半額

※8月15日(火)は無料開放

#### お詫びと訂正

7月号広報展示室で記載した川村清雄「鳩図巻」の制作年代に誤りがありました。正しくは、印章「七十七翁」より「昭和3年頃」でした。ここに訂正しお詫びいたします。



## 平成28年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品

### 最優秀賞「大魚を求めて」

撮影者：富永 明さん(宇都宮市)

撮影地：小川地区那珂川

